地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH, PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

http://www.sgepss.org/sgepss/

第191号　会　報　2007年4月25日

目　次

会長就任の挨拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
SGEPSS副会長着任の所感 ・・・・・・・・・・・・ 2
SGEPSS第24期役員選挙結果・・・・・・・・・・・ 3
第239回/24期第1回運営委員会報告・・・・・・・・4
第121回総会開催のご案内・・・・・・・・・・・・ 5
会費納入について ・・・・・・・・・・・・・・・ 6
1990WPGMと地球物理関係諸学会連合活動
　木村磐根 ・・・・・・・・・・・・・・ 6
IPY（国際極年）2007-2008について 佐藤夏雄 ・ 8
国際ディジタル地球年（eGY）について 家森俊彦 9
国際惑星地球年(IYPE)について 宮崎光旗 ・・・ 9
連合大会でのI*Y関連セッション・展示および
　国際太陽系観測年(IHY) 国際会議について
　湯元清文・・・・・・・・・・・・・・ 10
連合大会のご案内 ・・・・・・・・・・・・・・・11
連合大会期間中の会費支払い窓口のご案内・・・11
2007年秋学会「特別セッション」提案募集・・・ 12
「物理学会・天文学会・SGEPSS合同プラズマ
　共催セッション」のご案内　中村 匡・・・・ 12
男女共同参画検討提言WG報告 ・・・・・・・・・ 13
EPSからのお知らせ ・・・・・・・・・・・・・・ 14
国際学術交流事業受領の報告　相澤広記 ・・・ 15
国際学術交流事業受領の報告　三宅壮聡 ・・・ 16
関連研究集会のご案内・・・・・・・・・・・・・ 17
学術賞・研究助成のご案内・・・・・・・・・・・ 17
関連公募のご案内・・・・・・・・・・・・・・・ 19
学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール ・ 21
SGEPSSカレンダー・・・・・・・・・・・・・・・ 21
賛助会員リスト・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

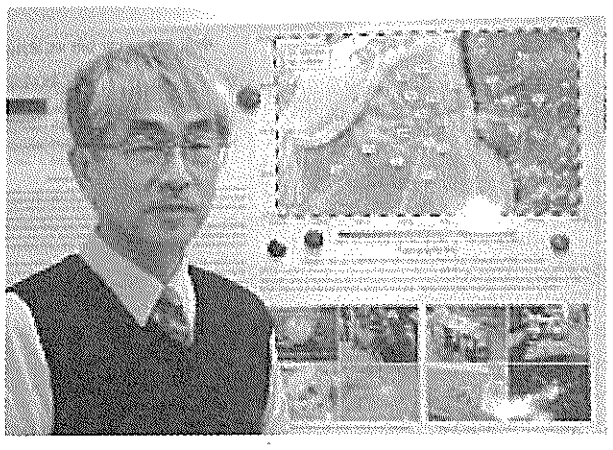
会長就任の挨拶

第24期会長　歌田久司

2年前の副会長選挙の結果により、規約に従って会長に就任することになりました。2年前の会報には、「本蔵会長を補佐する2年間を修行のつもりで勤め、2年後に備えたいと思います」という見通しを述べましたが、あっと言う間にこの日を迎えたというのが正直な感想です。幸い、津田副会長をはじめとして、今24期の運営委員会のメンバーに多くの経験者をそろえていただいたことは、心強い限りです。これら運営主体のメンバーと一体となり、評議員会からのアドバイスを受けつつ、今期の学会運営を行なう所存です。会員各位のご協力をお願いする次第です。

振り返りますと、宇宙3機関の統合、国立大学等の法人化、学術会議の体制改革などが次々と実施されたのに加え、学会事務センターの倒産などという不測の事態もあって、21世紀初頭は当学会にとっても大変動の時期でした。中でも、2005年4月に長年の念願であった日本地球惑星科学連合が発足したことは、学会のあり方に対する私達の考え方を一変させるような出来事で、それまで行なわれてきた学会の将来構想にも再検討が求められることになりました。現在、連合では公益法人制度改革にあわせて、法人化の準備を進めているということです。このような現状も踏まえ、今後は、連合傘下における当学会のあり方と同時に、連合の発展に当学会がいかに貢献できるかが問われることになると思われます。欧文誌EPSの発行運営体制についても、見直しの必要な時期に来ているように思われます。これらさまざまな問題を含む学会の将来構想については、それと密接な関係にある学会名称の問題をも含めながら、過去2期にわたって将来検討ワーキンググループにおいて検討を行なってきたところです。しかし、連合の発足を機に、活動を一時中止としました。今期においては、まず運営委員会において連合体制のもとでの学会の方向性等についての議論を行ない、この世代が合意できる内容の叩き台を作成した後にさらに広範な議論を展開するという段階を踏みたいと思います。

さて、現在当学会をとりまく諸情勢としては、相変わらず厳しい状況にあります。国立大学等におい



ては、21世紀ＣＯＥプログラムに続くグローバルＣＯＥプログラムが開始される一方、法人化して最初の中間評価が始まろうとしております。また、先行して独法化した機関においては、次期中期目標・計画の策定にとりかかっているところも多いと思います。一連の流れは、研究機関間に競争原理を持ち込んで教育・研究および科学・技術の発展をもたらそうというものです。このような中で、組織の枠組みを越えた学問の発展を担うのが学会の役割であり、その重要性はますます高まっていると言えます。また、競争の激化とともに今後も様々な組織改編や体制の改革などが行なわれることが予想されます。必要に応じた意見発信や提言など、学会として対応すべき事柄には適切かつ可能な限り迅速に対応したいと考えます。

当学会の運営に関しましては、これまでに引き続き、他分野・他学会との連携や新たな分野の開拓などによる秋学会のさらなる充実を目指した取り組みをして行きます。前期に導入したコンビーナ制などの効果がすでに表れてきているところですが、今後も分野横断型セッションあるいは他学会との合同セッションの開催などが積極的に行なわれるのを望みます。一方、昨年策定された第三期科学技術基本計画においては、「社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術」「人材育成と競争的環境の重視」等がうたわれ、学会の果たすべき役割の重要性が一層高く求められております。その中の一つである研究成果の社会への還元として、数年前より秋学会において記者発表や一般向けイベントなどのアウトリーチ活動に取り組んできたところです。今秋の一般向けイベントは火山を主テーマとする内容で行なうべく準備が進められています。今後も、このような取り組みへの会員各位のご協力をお願い致します。一方、人材育成や男女共同参画問題等、学会の取り組むべき課題はますます多くなっております。その中には連合という大きな単位で対応すべきものがありますが、まだ連合内部の組織体制が十分に整っていないため、結果として今期は全ての運営委員が複数の担当項目を持つことになりました。会員のボランティア精神の高さは当学会の誇るべき美点ではありますが、過度の負担にならないよう、連合側に対応できる組織体制が整うのに合わせて随時移行措置をとりたいと思います。

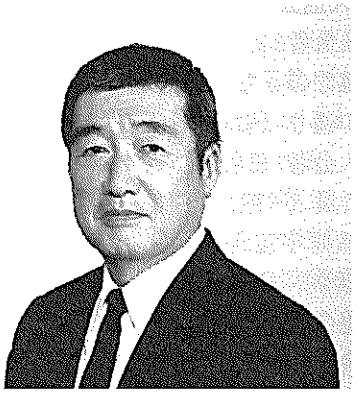
今年は当学会を含む地球惑星科学にとって研究上の大きなイベントが二つ控えております。7月に実施される予定のSELENEによる月探査ミッションと、国際統合掘削計画においてライザー型掘削船の「ちきゅう」の本格的運用が10月に開始されることです。これらの実現に向けて関わってこられた会員各位に、長年のご苦労に敬意を表する次第です。また、これらのプロジェクトを含め、会員各位の研究活動から大きな科学的成果がもたらされることを期待致します。

SGEPSS副会長着任の所感

第24期副会長　津田敏隆

伝統あるSGEPSSの副会長に選ばれ、真に光栄であるとともに今後4年間の重責をひしひしと感じています。３期離れていた運営委員会に改めて参加し、SGPESSが地球惑星科学の新生を創出しうる人材にあふれていることを実感し、心強く思いました。歌田久司会長のご指導のもと、評議員ならびに会員各位とともにSGEPSSの進展に微力ながらも尽力する所存です。

会報に寄稿する機会を与えて頂きましたので、自己紹介を兼ねてこれまでの国内外の学協会における活動経歴を簡単にまとめさせて頂きます。私の主な研究分野は大気圏科学の観測的研究、特に中層大気の力学過程（大気波動）のレーダー・衛星電波観測で、超高層物理学と気象学の双方に関係しています。そのため日本気象学会にも所属しており、この数年は理事を務め、また国際的にはIAMAS・ICMA(国際気象学大気科学協会・中層大気コミッション)のscience secretary として、1997年にウプサラでのIAGA、1999年にバーミンガムで開かれたIUGGでMAS(Middle Atmosphere Symposium)の総合企画を担当しました。一方、1999年よりSCOSTEPのBureau としてPost-STEPプロジェクトおよびCAWSESの推進に関わり、太陽活動が地球・人間圏へ与える長期・短期的な影響に興味を抱いています。こういった研究活動の過程



で、SGEPSSの関連分野との協力は当然ながら、例えば、測地学研究者と共同で「GPS気象学」、「精密衛星測位による地球環境監視」といった新しい課題に挑戦しています。臆せずに学際・萌芽研究にも手を出せたのは、隣接・異分野に対する接着力・柔軟性に満ちたSGPESS固有の学術環境の中で育んで頂いたおかげだと感謝しています。

AGU、EGUが勢力を拡大するなか、ICSU配下の国際学術組織の影響力に翳りが見える昨今、欧米に伍するアジアの極を形成することが重要だと思います。一方、日本学術会議の体制は20期に大きく変革され、必ずしも個々の学協会の生の声が直達しないのが実情です。こういった状況下で、地球惑星科学連合の学協会ソフトリンクの行方に関心が集まっています。今後、地球惑星科学の固有分野に安住することなく、視点を広げる努力が要請されるでしょう。ますますSGEPSSが学際・萌芽研究の坩堝として重要な役割を果たすと期待されていますが、その新展開の一助となるべく努力しますのでご助力を賜りたくお願い申しあげます。

SGEPSS第24期役員選挙結果

第24期役員選挙については2007年1月12日に投票を締め切り、翌週1月15日に東京工業大学火山流体研究センターにおいて、開票および集計作業を行いました。松島政貴会員および相澤広記会員の立会い（および作業協力）のもとで野澤悟徳運営委員、高橋幸弘運営委員、本蔵義守会長、小川康雄運営委員、東京工業大学学生3名によって厳正にかつ効率的に作業が行われ、午前10時から開始して午後5時に無事終了することができました。

以下に集計結果と、その後の協議によって決定した役員を示します。

＊印が新たに役員に決まった方です。

（1）副会長

投票総数 152、　うち白票6、　うち無効票0

順位	氏名	得票数
1	津田敏隆	56 ＊
2	湯元清文	20（次点）
3	家森俊彦	12
4	福西　浩	10
5	浜野洋三	10

（以下略）

（2）評議員

投票総数 1368(=152x9)、うち白票89、うち無効票2

順位	氏名	得票数
1	藤井良一	115 ＊
2	前田佐和子	112 ＊
3	深尾昌一郎	78 ＊
3	家森俊彦	78 ＊
5	浜野洋三	74 ＊
6	向井利典	72 ＊
7	湯元清文	65 ＊
8	小野高幸	54 ＊
9	中村正人	47 ＊
10	松本　紘	44（次点）
11	渡部重十	43

（以下省略）

辞退者は無かったので上位9名が当選となり、内規により本蔵義守第23期会長が無投票で評議員になります。

（3）　運営委員

投票総数　1963(=151x13)、うち白票126、うち無効票2

順位	氏名	得票数
1	木戸ゆかり	119 ＊
2	小川康雄	118 ＊
3	高橋幸弘	113 ＊
4	石井　守	111 ＊
5	石川尚人	110 ＊
6	清水久芳	107 ＊
7	山本　衛	102 ＊
8	臼井英之	98 ＊
8	長妻　努	98 ＊
8	齋藤昭則	98 ＊
11	河野英昭	88 ＊
11	野澤悟徳	88 ＊
13	北　和之	85 ＊
14	笠羽康正	80
15	吉川一朗	79 ＊

16　田口　真　　74 ＊
17　阿部琢美　　71 ＊
18　畠山唯達　　70
（以下省略）

内規に従い、得票順に13名を選び、残り3名については、運営委員会の継続性ならびに運営委員所属機関等のバランスを考慮して、次期会長が次期副会長、今期･次期運営委員と協議の上で選出しました。
（本蔵義守）

第239回/24期第1回 運営委員会報告

日時：2007年3月3日（土）13:00～17:20
場所：東京工業大学石川台2号館　315号室
出席者（敬称略）：本蔵義守、歌田久司、津田敏隆、阿部琢美、石井　守、石川尚人、小川康雄、北　和之、木戸ゆかり、齊藤昭則、関華奈子、長妻　努、中村正人、山崎俊嗣、山本衛、清水久芳
欠席者（敬称略）：臼井英之、門倉　昭、河野英昭、高橋幸弘、田口　真、野澤悟徳、吉川一朗

(1) 前回議事録承認
・承認された。

(2) 選挙開票結果の報告（石井）
・平成19年1月19日に行われた開票・集計状況と開票結果が報告された。

(3) 新委員の役割分担（石井）
・新委員の役割分担を以下のように決定した。総務：石井、庶務：清水・小川、会計：山本・阿部、　雑誌：齋藤・田口、　連合対応：高橋・石川・河野、広報(WEB)：臼井・齋藤・野澤、広報(会報)：河野・北、秋学会：野澤・石川・臼井、アウトリーチ：長妻・北・清水・高橋・吉川、男女共同参画：木戸・田口・長妻、3学会合同プラズマセッション：臼井・吉川、学校教育WG：小川・木戸・北、学生発表賞：阿部・齋藤

(4) 共催、協賛等（野澤[代理：小川]）
・共催「2007年物理・天文・SGEPSS合同プラズマ共催セッション」（主催：日本天文学会）、日時：9月26日（水）～28日（金）、場所：岐阜大学

(5) 入退会（門倉[代理：小川]）
・入会者3名、シニア会員7名を承認した。退会申請14件のうち、10件について承認した。詳細は以下の通り（敬称略）。
①入会者（3名）
正会員（一般）3名：久保雅仁（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部）、劉会欣（北海道大学）、早川吉則（桐蔭横浜大学医用工学部）
②退会者（10名）
正会員（一般）10名：富田二三彦、永井智広、渋谷仙吉、　江尻全機、　兵頭博信、　永田勝明、関谷　実、一ノ瀬琢美、　松村正一、菅野常吉
③シニア会員（7名）：　上野宏共、菊池　弘、西野正徳、木下　肇、上野直子、丸橋克英、鷲見治一

(6) 名簿（門倉[代理：小川]）
・次号会報と同時に郵送予定。

(7) 会計関係（石井）
・3月2日現在の学会費納入状況が示され、予算作成時の想定納入率と比較すると概ね順調であることが報告された。
・事務局（プロアクティブ）費用見積もりの承認がなされた。
・会費長期滞納により強制退会該当者リスト（15名）が提示された。次回運営委員会までに全員に対して会費納入の働きかけを行うこととした。また、それまでに納入されない場合は退会となる。
・会費長期滞納者への対応を、強制退会・除籍処分等として学会規約において明文化することが提案された。明文化する必要性は認められたものの、学会規約における明文化の妥当性と、柔軟な運用の必要性について議論された。今後議論を継続する。
・MMBシステムの英語版（暫定）が作成され、海外会員へ周知された。

(8) 海外学術申請（石井）
・2件の応募があり、議論の結果、野口克行会員の申請を採択した。

(9) 山田科学財団申請に対する学会推薦
・2件の応募があり、議論の結果、笠原禎也会員および大山伸一郎会員の申請を両者とも推薦することとした。

(10) EPS・JGG関連（山崎・齋藤）
・研究成果公開促進費の使用について、250万円以上の契約について今後は原則として入札になることに対する対応について報告された。これに伴い、EPSの経理の大幅な変更が予想される。
・JGG 電子アーカイブについての進捗状況が報告された。1993-1997年 の5年分は4月に公開される予定である（それ以前の分は来年度以降公開予定）。

(11) 連合関係（中村・石川）
・法人化の動きが継続していることが報告された。
・平成19年5月に連合役員が一新する。本学会からは、長妻会員が国際委員会に参加する。
・今年の連合大会のコマ割りが完了し、現在はコンビーナがセッション内のプログラムを調整中であることが報告された。
・2008年大会から、「大気化学」セッションが大気化学研究会・SGEPSS・日本気象学会・日本地球化学会の共同開催で、レギュラーセッションとなることが報告された。また、「惑星大気圏・電磁圏」をレギュラーセッションに加えるかについて今後議論する。
・学会レギュラーセッションのコンビーナ交替・セッション説明修正の依頼手順の見直しについて、報告された。
・昨年11月に、連合プログラム委員長からセッション新分類と略記号案が各学会宛に提示された。これに対し、検討に時間を要する問題であることを本学会から回答した。今後引き続き検討を行う。

(12) 秋学会について（山本・石川・関）
・平成１８年秋に開催された学会担当者の活動報告がされた。これまでの秋学会との大きな変更点は、オンライン投稿システムの改善、予稿集のCD-ROM化、参加料の改定であった。
・平成19年秋学会までのスケジュール見通しが提示された。特別セッションの説明・投稿呼びかけや、プログラム公開をオンラインですることを今後検討する。

(13) ３学会合同プラズマ科学セッション（関）
・物理学会、天文学会、SGEPSS共催の3学会合同プラズマ科学セッションについては、第3回目が今年の秋の天文学会開催期間中（2007年9月26-28日）に天文学会の主催にて開催される。第1回目の世話役打ち合わせが2月22日に東工大にて行われ、各学会で共催の承認をとるという手続きが確認された。本学会からの世話人は、福井県立大の中村 匡会員ほか５名。

第１２１回総会開催のご案内

第121回総会を連合大会開催中の以下の日時に開催します。

開催日時：5月22日（火）12:30～13:30
開催場所：幕張メッセ国際会議場3階
301B会場

学会賞授与などの重要な議事がありますので会員の方はぜひご出席ください。やむを得ず欠席される場合には、事前に同封の委任状を会長宛てに郵送いただくか、運営委員にお渡しください。

(14) 男女共同参画（木戸・長妻）
・男女共同参画学協会連絡会の活動について
①10月に開催された第４回シンポジウムで、第４期が終了し、11月より第５期新体制がスタートした。これまではシンポジウム参加費のみで連絡会運営がされてきたが、特別事業の費用、Web広報費、会議費などを、各学会の規模に応じて運営費として徴収することとなった。
②「平成１９年度女子高生夏の学校」運営委員会が立ち上がった。本学会からも企画・準備・運営協力等に関わる予定。
③「女性の理工系進路選択支援事業」に協力し、全国の高校・女性施設を対象として研究会・モデル事業提案を行った。
・大学・研究機関における有期限雇用の研究職に関するアンケート調査の実施報告と、集計・分析の途中経過報告がされた。詳細については後日5月の連合大会で報告予定。

(15) アウトリーチ（北）
・今後のWebコンテンツ整備の方針について説明された。これから半年程度の間に、(i)これまでに作成したリーフレットの内容の掲載、(ii)研究室・研究内容情報の提供、(iii)講師情報の提供を行う予定。

・学校教育WGが昨年２回開催された。高校地学の教育内容のうちSGEPSS分野関係分について、新しい知見を取り入れた冊子を作成し、関係者に配布する予定である。
・次回秋学会において、火山をテーマにしたアウトリーチ活動を橋本会員を中心に企画中。

(16) webサーバ（齋藤）
・新サーバに移行。メールリストに投稿されたメールのWebへの掲載の自動化について今後検討を行う。
・アウトリーチが発信する新コンテンツをふまえて、今後学会ホームページを改装予定。

(17) 次回運営委員会・評議員会・総会日程
5/20 17:00 ～ 運営委員会
5/21 17:00 ～ 評議員会
5/22 12:30～13:30 総会

(18) 会報の発行予定（北）
・本会報以降の会報発行の暫定的な日程は以下の通り。6月初旬：秋学会 call for paper、9月（含：秋学会プログラム）、12月中旬。

(19) その他
・学会事務局の住所は、プロアクティブ東京事務所ではなく、実質的な作業が行われている神戸とする。
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-8-1
プロメナ神戸16F（株）プロアクティブ内
地球電磁気・地球惑星圏学会 事務局
TEL：078-366-5057 FAX：078-366-5051
電子メール：sgepss@pac.ne.jp

（清水久芳）

会費納入について

学会の様々な活動を支える財政基盤は、会員の皆様に納入していただく会費にあります。平成16年度の学会事務センター破綻のあと、しばらく会費納入率が低迷しておりましたが、昨年度までにようやく回復して来ました。しかしながら、度々の督促を経てようやくお支払いいただける方がかなり多くいらっしゃいます。会費減収は健全な学会運営に重大な支障をきたします。また督促作業には経費とともに人的コストが相当かかります。なるべく早くお支払いいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

当学会の会費納入方法は以下のようになっております。
(1) コンビニエンスストアでの支払い
(2) 銀行振込
(3) 銀行口座自動引き落とし
(4) クレジットカード払い
(5) 学会開催時窓口での支払い
（連合大会については、下記参照）

口座自動引き落とし、およびクレジットカード払いについては、学会が手数料を負担します。支払いを忘れがちな方には、口座自動引き落としが便利でお得です。ご希望の方は事務局へ手続き書類の申請を行なってください（4月30日締切です）。詳細については同封の別紙をご参照ください。平成19年度連合大会においても、学会受付デスクに会費支払い窓口を設けます。開設日時は、5月21日(月)午後、22日(火)全日、および23日(水)朝～15：00の予定です。

（会計担当運営委員：山本衛・阿部琢美）

1990WPGM（国際地球物理金沢会議）と地球物理関係諸学会連合活動

名誉会員　木村磐根

京都大学を退職してから、私学の教育に没入していて、本学会にもご無沙汰が長くなっているが、久しぶりに昨年秋、相模原市で開催された第120回SGEPSS総会・講演会および懇親会にも出席した。その席上、河野長元会長、本蔵義守会長から、現在のように日本地球惑星科学連合の連合大会が順調に発展した来ているのには、わが学会が諸学会を引っ張ってAGUとの共催の1990WPGMを開催したことが大きな契機となっているので、そのことを会員の皆さんにご紹介する記事を会報に出して欲しいとのご依頼を受けた。この会議は準備段階からすると今から20年ほども前のことであり、かなり忘却のかなたになってしまっている。そこで主催地金沢で中心的にご活躍頂いた長野勇会員から当時の会議の記録をお借りし、また古い会報などを探し出して記憶を補い、その経緯の概要をまとめてみた。ご参考になれば幸いである。

1986年末、AGUのForeign SecretaryのRoederer教授から、本学会とAGUとの協力関係を強めたいという申し入れがあった。1987年10月に仙台で開かれる予

定のプラズマ波動をテーマにしたチャップマンシンポジウムは当学会とAGUの共催となっていることもあり、当学会としては本学会の総会、講演会などのニュースを積極的にAGUのEOSなどに掲載してもらうこと、また秋のAGU総会に当学会の若手研究者の参加を奨励することなどにより、積極的な協力関係を持ってはどうかということが運営委員会でも検討され始めた。その後上記のチャップマンシンポジウムが開催された機会に、AGUのExective SecretaryのDr. Spilhausが来日したので、仙台で当学会の木村磐根会長、松本紘運営委員（いずれも当時）が話し合いを行い、続いて東京で国内の地球物理関係学会代表との話し合いが行われた。その後、Spilhausから当学会会長あてに具体的な提案が示された。その内容の主な点は以下の通りである。

1. 本学会のニュースをEOSに掲載しても良い。
2. 1990年夏にAGUの学会（全分野）を日本で開催したい（米国で開催される春、秋の学会の中間の時期に第三番目の会議として企画するもの）。規模は1000名（内日本人700名）程度、期間は約１週間。財政的にはすべてAGUの責任で開催し、費用の殆どは登録料で賄うので、日本からの特別の財政的援助は必要としない。ただしプログラムチェアマンや、ホテル、会場設備などの世話などでボランタリーに協力をお願いしたい。また展示を行いたいので関連ある企業とコンタクトしたい。

上記2.の項目についてはAGUはその後正式にその企画の実行を決め、本学会にも是非協力をして欲しいとの依頼が来た。

当時国内の地球物理分野で学会連合を進めるための検討小委員会が発足していた。しかし各学会は自学会のアイデンティティを大事にしたいという観点から、AGUのような一つの大きな連合体の学会となることには大きな抵抗があり、むしろ、各学会の独自性を保ちながらソフトな協力活動が出来ないかという方向を模索していたといえる。これらに対応するため、1988年2月、および4月に開催された当学会の運営委員会では「学会連合については、本学会としては広く地球物理関係のすべての学会に働きかけて学会連合の検討スタートを提案すること」また「AGUシンポジウムの日本開催についてはこれに積極的に参加すること、および財政的にも何らかの協力をする方向で検討すること」を83回総会に提案し、了承を求めることになった。

これまでに、国内の地球物理関連諸学会や本学会でも、AGUの前記提案のWPGM（Western Pacific Geophysics Meeting）はAGUの覇権を日本を含む西太平洋地域にまで広げようとする意図での企画であり、歓迎しないという積極的な反対意見も聞かれたが、当学会の運営委員会では、米国からの提案が学会連合推進の足がかりとなると期待されることにかんがみ、AGU主催のシンポジウムを日本で開催するというのではなく、日本の関連諸学会が米国と対等の主催者となって開催するという方針で協力すべきであること、また本学会が国内の他の学会を牽引する形で、積極的にAGUへの協力姿勢を出すべきであるという結論を得、前記のように運営委員会から総会に提案した次第である。

同年4月に開催された本学会の83回総会では、上記の運営委員会提案がいずれも採択された。またその年10月の84回総会では、WPGMの開催に対して、当学会としては100万円を限度とする財政支援をすることも了承されたので、当学会は他の地球物理関連諸学会に積極的に協力を働きかけることになった。これらの経緯を経て、当学会に加えて、国内の7学会（地震、測地、地球化学、海洋、火山、気象、地質の各学会）と陸水グループが参加を表明され、国内連絡会が結成された。本学会は幹事役を仰せつかり、前会長の木村会員と本蔵運営委員がAGUとの窓口となって対応を進めた。当学会は会場の候補地も検討し、財政的支援が得られる可能性のある石川県金沢市が有力な候補となることをAGUに通知した。

翌1989年3月、AGU側の責任者となったマイアミ大学のC. Harrison教授から正式に日本の各学会にWPGMの日本での開催の要請があり、国内の上記の9学会がAGUと対等の立場で共催したいという希望をつけ、正式の承諾を回答した。

日本の各学会の会長が組織委員となり、同年4月3日東京工業大学で組織委員会（OC）が開催された。本学会はこれまでの経緯から木村会員が組織委員で日本側の代表となり、またChairpersonのHarrison教授を補佐するCo-chairpersonを務めることとなった。この委員会では、会場を金沢市とすること、およびプログラム委員会の日本側のメンバーなども決められた。

4月11日にはHarrison教授を迎えて金沢で1990WPGM計画会議を開催して1990WPGMの開催の基本方針を決定した。

同年9月には金沢での実行委員会（LOC）および東京での組織委員会なども開かれ、準備は着々と進められた。

一方、4月の組織委員会の開催を契機として、地震学会から、国内の地球物理関係の翌年春の学会を、東京の同じ場所で同じ時期に開催してはどうかとい

う提案をしたいので、本学会も共同提案者となって欲しいとの申し入れがあった。当学会は運営委員会、評議員会にお諮りして共同提案者に名を連ねることとなった。これは合同学会開催の具体的な最初の試みである。

このような経緯をへて翌年1990年8月21日～25日に金沢市内の4会場をお借りして第1回WPGMは無事開催され、18カ国からの1077名（国内852名、国外225名）の学会出席者と40名の同伴の参加を得て成功裏に終了した。この成功には、現地金沢大学工学部の満保正喜教授、長野　勇教授、高瀬信忠教授、理学部の河野芳輝助教授等のご尽力によるところが絶大であった。現地の実行委員会には京都大学からも応援を送った。

この会議の経費については、AGU側は米国でのAGU meetingと同様、発表論文の募集はEOSを通じて行われ、シンポジウムのプログラムや予稿集も同様全額AGUの負担で作成された。一方会場および設営など国内での支出は、参加登録料全額と石川県、金沢市、万博協会からの援助金、地震予知総合研究振興会からの援助金、参加各学会の負担金により賄われた。当初これらの準備には予算の不足が予想され、参加学会がそれぞれ赤字を分担することを覚悟して支援金の拠出をしたが、結果的には期待以上の参加者数を得て逆に剰余金が生まれた。会議終了後の組織委員会では次のような将来方針を残している。

「今回の会議はわが国の地球物理関係諸学会にとって、合同して開催する最初の学術会議であった。会期中に開催された組織委員並びに共催学会長会議において、今回の成功をふまえ、同様の国際会議を今後も環太平洋地域で開催することが合意された他、国内関連学会間の横のつながりを強化し、合同の学会活動を行ってゆく方針が了承され、また今回の剰余金をこの目的のための基金とすることが了承された」

この結論がその後の地球物理諸学会の合同学会を継続して開催する大きな礎となったこと、さらにはこれが現在の“日本地球惑星科学連合”の連合大会へと順調に発展して来ていることにつながっており、このシンポジウムの主催者の一人として喜びにたえない。なおこの流れを終始強く支えてこられ、その後の地球物理関連諸学会の合同学会開催に力を注いでこられたのは、本学会の本蔵義守第23期会長であることを特に記して、そのご苦労に敬意と感謝の意を表したい。

IPY（国際極年）2007-2008について

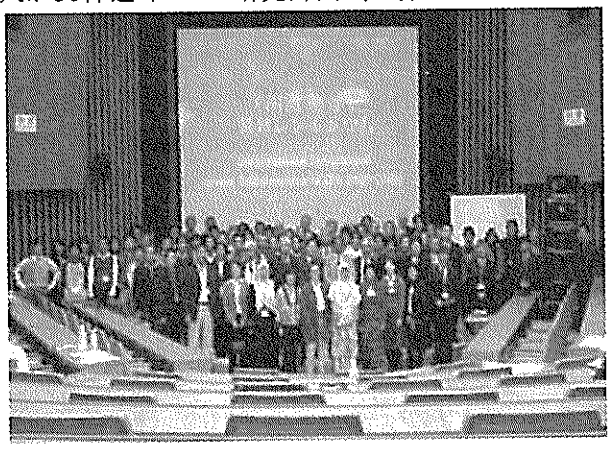
IPY国内委員会　委員長　佐藤夏雄

国際科学会議（ICSU）と世界気象機関（WMO）は、1957年～1958年に実施された国際地球観測年（IGY）から50年後となる機会に、国際協調に基づく極地の学術研究と観測及びそのアウトリーチ・教育のため、国際極年合同委員会（ICSU/WMO Joint Committee）を立ち上げ、IPY2007-2008を計画した。国際極年の主要テーマは、

(1) 極域環境の現状の把握
(2) 極域環境のこれまでの変化と将来予測における精度の向上
(3) 地球システムの中での極域と他地域との相互作用の理解
(4) 極域における科学フロンティアの調査研究
(5) 極域観測による地球内部及び太陽系の理解
(6) 極域環境下における人間社会の持続可能性と文化的多様性の調査

である。国際極年合同委員会は、各国研究者に研究計画の提案を呼びかけるとともに、その評価と調整を行った。我が国は、日本学術会議が国際極年国内委員会を立ち上げ、個々の研究者、研究機関と連係を取り、国際極年計画の推進を図っている。そこで、IPY2007-2008の主要テーマを考慮し、特に我が国の成果が期待できるものとして、南北両極でのこれまでの成果を生かした視点にたったテーマに取り組むこととしている。

IPY2007-2008の国内活動の一環として、日本学術会議地球惑星科学委員会と国立極地研究所は、国際極年2007-2008の開始の日にあたる3月1日(木)に、日本学術会議講堂において、国際極年（IPY）開幕シンポジウム「国際極年2007-2008におけるアジアの連携」を開催した。国際極年として日本の研究者数百人が80件近くのIPY研究計画（世界全体では約400



件）に参画しており、今回のシンポジウムは、関連する計画が相互に協力できるよう、実施計画について情報交換の場を設けるために企画したものである。今回のシンポジウムには、アジア諸国を中心に14カ国から117名（内日本からは94名）の研究者等が参加し開催された。

国際ディジタル地球年(eGY)について

eGY国内委員会　委員長　家森俊彦

2007-2008年に計画されている国際ディジタル地球年(eGY:electronic Geophysical Year)は、元々はIAGA（国際地球電磁気学・超高層物理学協会）から提案されたものですが、広汎な地球科学分野のデータに関する諸問題、すなわち、データの利用、保存、発掘、人材育成と啓蒙活動に最先端の情報科学技術を活用することを目的としています。eGYは、過去、現在、未来の地球科学データを迅速かつ便利で自由に使えるようにするべくICSU(国際学術会議)などの国際学術機関に認知された活動で、国際的活動の推進と調整を行うための枠組みとなるものです。特に、データの所在と利用情報、データの公開、過去のアナログデータのディジタル化と保存、発展途上国での人材育成、社会への成果還元、ネットワークを活用したデータ交換に重点をおいて活動を行います。地球科学の推進には、国際共同による地球観測とデータの自由な交換が不可欠であり、1957-1958年に実施されたIGY(International Geophysical Year: 国際地球観測年)では多岐にわたる観測が世界各国の協力で実施され、大量のデータが取得されました。こうして得られたデータの国際的な交換を推進するため、世界資料センター(WDC: World Data Center)組織が国際学術連合(ICSU)の下に設立され、IGY終了後も継続された多くの観測から生み出されたデータは、WDCを通して全世界の研究者に提供されました。

我が国における活動としましては、2005年秋に、日本学術会議第４部会・地球電磁気学研究連絡委員会（当時）の下にあった地球電磁気・超高層大気データ問題小委員会のメンバーが中心となって、eGY国内委員会を設立し、仮のホームページを立ち上げました(http://swdcft49. kugi.kyoto-u.ac.jp/egy/)。そして、2006年シンガポールAOGS(アジア・オセアニア地球科学会)では、eGY関連セッションとして、"Electronic data collection and use of real-time database in eGY"を提案し、今年夏のバンコクAOGSでも関連セッションがもたれます。５月の日本地球惑星科学連合2007年大会では、IHY（国際太陽系観測年）などと共同で、ブースでの展示を計画しています。

今年１月には、日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会に「eGY小委員会」が設置され、国内委員会とともに、本格的な活動を開始したところです。今後とも、学会の皆さまの積極的な参加とご協力をお願い致します。

国際惑星地球年（IYPE）について

IYPE国内委員会　幹事　宮崎光旗

IGY+50にあたる2007-2008を中心に、地球惑星科学に関連した4つの国際年、eGY、IHY、IPY、それとIYPEが企画・実行されています。これらのうち、前3者は地球電磁気・地球惑星圏学会の皆さんもよくご存じの国際年だと思われますが、最後のIYPE（International Year of Planet Earth、国際惑星地球年）はあまりご存じないのではないでしょうか。

国際惑星地球年とは、地球と人類の持続可能な未来のためには地球科学の知識が欠かせないことを広く知ってもらい、それを実際に社会で役立ててもらうために、国際地質科学連合（IUGS）とユネスコが共同で立ち上げた国際プログラムで、国連による国際惑星地球年2008を中心に、2007年から2009年の3ヶ年にわたって実施されます。そこでは、地球科学の専門家のみならず、もっとよく地球を知りたい人々、あるいは今まで地球に関心のなかった人々にも参加してもらうために、科学プログラムとアウトリーチプログラムの二つの活動が用意されています。

科学プログラムでは、国際年のサブタイトル「社会のための地球科学」となっている地球科学と社会との関係を念頭においた、以下の10のテーマが選ばれています。

・地下水ー持続的利用に向けて
・災害ー危険を最小に、知識を最大に
・地球と健康ーより良い環境を作るために
・気候変動ー石に刻まれた記録
・資源ー持続的利用に向けて
・巨大都市ー世界的な都市化の未来
・地球深部ー地殻からマントル、そしてコアまで

・海洋ー時の深淵
・土壌ー地球の生きている肌
・地球と生命ー多様性のみなもと

それぞれのテーマごとに、社会と関わりのある課題が設けられていて、世界中の研究者にその課題に応えるよう呼びかけています。

アウトリーチプログラムは、科学プログラムと並ぶ国際年の中心的活動として位置付けられています。なぜなら、国際年の主目的が、地球科学の手中にある知識と情報が人類社会の共通の利益のために使えること、また効果的な使われ方があることを一般の人々や政策決定者、あるいは政治家によく知ってもらう、さらには活用してもらうことだからです。とくに、

・学校教育の中では、地球科学の大切さがよく理解され、地球の仕組みとそこで起こっていることを体系的に学べるようにする
・広く社会では、より多くの人々が地球科学を身近に感じ、地震・火山噴火などの災害のみならず、日々の生活と地球科学が密接に関連していることを知ってもらう
・国や自治体等の政策関係者には、地球科学が政策決定や実行にいかに重要であるかを深く理解してもらう

ことをめざしています。

日本におけるIYPE活動は、学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会IYPE小委員会が中心となって実施しています。今年2007年の1月22日には、地球惑星科学委員会主催、産業技術総合研究所・海洋研究開発機構・国立科学博物館・防災科学技術研究所・土木研究所・宇宙航空研究開発機構共催によるIYPEシンポジウム・開催式典が東京大学理学部1号館小柴ホールで行われました。そこで、日本が重点的に取り組む科学プログラムとして災害・資源・巨大都市が上げられ、アウトリーチ活動の中心をジオパークの実現，地学リテラシーの向上、およびマスメディアとの連携による教材・啓蒙資料の作成におくことが紹介されました。また、特別プログラム「GEOSSへの貢献」として地球観測衛星情報から地上・地下情報までの大規模なアーカイブと高速処理を可能にするITグリッド技術の開発と普及が述べられました。このプログラムは、地球電磁気・地球惑星圏分野においても，大変関心を持つことができるものではないでしょうか。

IYPE国内ウェブサイト
http://www.gsj.jp/iype/
IYPE国際ウェブサイト
http://www.yearofplanetearth.org/

連合大会でのI*Y関連セッション・展示および国際太陽系観測年(IHY)国際会議について

日本学術会議地球惑星科学委員会
国際対応分科会STPP小委員会　委員長
湯元清文

国際太陽系観測年(IHY)については、前回のSGEPSS会報(190号) において、その概要と関連する主な活動について報告しました。IHYに加え、IPY、eGY、IYPEに関するスペシャルセッション・特別展示が日本地球惑星科学連合大会において開かれます。また、IHY国際会議が開催されますのでお知らせします。

(1) 日本地球惑星科学連合2007年大会にて、以下の特別セッションを開催します。IGY以降の我が学会の歴史と発展について講演がなされます。次世代を担う若手会員の今後の参考になれば幸いです。
開催日：平成19年5月21日
特別セッション名：IGY+50　過去から未来へ
セッション記号：E204
セッション概要：「1957-58年に行われた国際地球観測年(IGY)から50周年ということで国際太陽系観測年（IHY）、国際極年 2007-2008(IPY2007-2008)、国際デジタル地球年（eGY）、国際惑星地球年(IYPE)の４つの国際研究プロジェクトが今年から開始しました。それぞれのI*Yの目指す研究課題や活動状況の紹介、 IGY当時の話題・今日への発展経過などの紹介、現在の最先端の研究方法や成果の紹介、さらに、未来に繋がる基礎過程の課題に関する招待講演がなされます。」

プログラム：
[I*Yプロジェクトについて]（紹介＋ポスター）
IHY（九大 湯元）、IPY（極地研 佐藤）、eGY（京大 家森）、IYPE（産総研 宮崎）
[IGY観測とその後]（口頭発表）
南極（平澤威男）、電離圏（若井 登）、データセンタ（荒木 徹）、宇宙線（近藤一郎）、太陽（日江井榮二郎）
[現在の最先端科学]（紹介＋ポスター）
ひので（国立天文台 櫻井）、IPS（名大STE研小島）、MAGDAS（九大SERC 湯元)、EISCAT（名大STE研 藤井）、SuperDARN(極地研 佐藤)、赤道

レーダ(京都大 深尾)
[未来 ユニバーサルプロセス] (口頭発表)
リコネクション (京大 柴田)、粒子加速 (東工大 寺澤)、マルチカップリング (九大 田中)、天体風 (北大 渡部)、惑星大気 (NICT 品川)、惑星電波 (福井工大 大家)

(2) 日本地球惑星科学連合2007年大会ではI*Yの特別展示もなされます。是非ご覧下さい。

日時:平成19年5月19～23日
団体名:国際地球観測年50周年とI*Yプロジェクト (IHY、IPY、eGY、IYPE)
展示内容:国際地球観測年 (IGY) からの歴史と50周年プロジェクト (IHY、IPY、eGY、IYPE) に関する先端研究について展示する。

(3) 国連主催のIHY国際会議
UN/ESA/NASA Workshop on Basic Space Science and the International Heliophysical Year 2007が平成19年6月18～22日に国立天文台で開催されます。詳細は以下のHPをご覧下さい。
http://solarwww.mtk.nao.ac.jp/UNBSS_Tokyo07/

各種会合
総会ほか、以下のSGEPSS関連の委員会・研究会が予定されています(4月1日現在確定分)。総会に参加できない会員の方は、委任状提出をお願いします。

学校教育WG
5月19日 (土) 16:00～19:00 2階204室
運営委員会
5月20日 (日) 17:00～20:00 2階203室
評議員会
5月21日 (月) 17:00～20:00 2階203室
第121回総会
5月22日 (火) 12:30～13:30 3階301B室

SEMS地震電磁気研究会
5月21日 (月) 18:00～20:00 1階101A室
中間圏・熱圏・電離圏研究会
5月23日 (水) 12:30～13:30 2階201B室
21COE太陽地球気候結合
5月24日 (木) 10:00～12:00 2階204室
内部磁気圏分科会
5月24日 (木) 12:30～13:30 2階201A室

(高橋幸弘)

連合大会のご案内

日本地球惑星科学連合2007年大会が、以下の期日・場所で開催されます。今回は、加盟46学協会が参加、投稿論文数が3000を越えるこれまでにない大規模な大会になります。それに伴い期日を1日増やし、6日間の開催となります。

会期 : 2007年5月19日 (土) ～24日 (木)
会場 : 幕張メッセ 国際会議場
(〒261-0023千葉市美浜区中瀬2-1)
http://www.jpgu.org/meeting/index.htm

SGEPSSは「地球電磁気学セッション (記号E)」と「地球惑星圏学セッション (記号M)」にレギュラーおよびスペシャルセッションを持っていますが、それ以外にも、「ユニオンセッション (記号U)」「大気・海洋学セッション (記号F)」「地球環境・気候変動学セッション (記号L)」「分野横断型セッション (記号J)」「その他セッション (記号Z)」などにも関連する発表が多数あります。また、「一般公開セッション (記号A)」には高校生によるポスター研究発表[20日 (日)]や、SGEPSS会員が大きな貢献をしている男女共同参画関連セッション[19日 (土)]もありますので是非ご参加下さい。

連合大会期間中の会費支払い窓口のご案内

連合大会開催中の以下の日時に、会費支払い窓口を設けます。会費手続きをこの機会にお済ませになる方は、日時を間違えないようにお願いします。

日時:5月21日 (火) 午後
22日 (水) 全日
23日 (木) 朝～15:00
開催場所:幕張メッセ国際会議場
SGEPSS学会受付デスク

2007年秋学会「特別セッション」提案募集

2007年秋学会（9月28日-10月1日）の講演会開催に向けまして、「特別セッション」のご提案を広く会員の皆様から募集致します。「特別セッション」の詳細は下記の通りです。以下の内容を添えてご応募下さい。

1．コンビーナー：お名前、所属、ご連絡先
2．セッションタイトル
3．セッション内容説明
4．特別セッションとして行う意義
5．セッションの規模（参加見込人数）

応募先：nozawa@stelab.nagoya-u.ac.jp
締切：5月11日（金）

応募されたご提案は運営委員会で検討し決定した後、周知いたします。多数のご応募をお待ち致しております。尚、ご質問等は運営委員会・プログラム委員の石川尚人、野澤悟徳、臼井英之までご連絡ください。

「特別セッション」について

学会及び秋の講演会の活性化を図るために、秋学会では「特別セッション」を設けています。「特別セッション」は次のような内容を議論する場として位置づけられています。

・レギュラーセッションとは別枠で議論する話題性のある内容（時期にあった話題、重要テーマ等）
・当学会内、また他学会も含めたような、分野横断的な内容

特別セッションでは、講演数の制限を緩め，レギュラーセッションと重複した 講演申込も可能となっています。

これまでの特別セッションは以下の通りです。

・2004年秋：「宇宙天気」
・2005年秋：「宇宙進出とSTP科学の接点」「SGEPSSにおける小型衛星の可能性」
・2006年秋：「地上-衛星観測・データ解析・モデリングの統合型ジオスペース研究に向けて」「地球惑星磁気圏探査：将来計画　～これからを黄金の２０年とするために」

（野澤悟徳）

「物理学会・天文学会・SGEPSS合同プラズマ共催セッション」のご案内

福井県立大学　中村　匡

今年秋の天文学会で物理学会、天文学会、地球電磁気・地球惑星圏学会(SGEPSS)合同のプラズマ共催セッションが開催されます。この共催セッションは、３学会が合同で３回開催することが決まっているプラズマ物理学に関するセッションです。第１回の共催セッションは2005年3月に物理学会の特別セッションとして、第２回は2006年5月にSGEPSS主催で日本地球惑星科学連合2006年大会のユニオンセッションとして開催されました。第３回の本共催セッションは、2007年9月26日～9月28日に岐阜大学で開催される日本天文学会秋季年会の企画セッションとして開催される予定です。

宇宙プラズマ物理学は主として物理・天文・地球物理の三つの分野で研究が進められてきましたが、分野をまたぐ交流は必ずしも活発とは言えませんでした。これらの分野で進められてきた研究には、磁気リコネクション、プラズマ加熱、粒子加速など、共通する物理過程を対象とするものが数多くあります。観測、実験、シミュレーション技術の進歩にともなって、従来考慮されていなかったプラズマ過程の重要性が明らかになりつつある研究対象も増えつつあります。関連分野の研究者が共通の問題意識を持って問題解決にあたる必要性が高まっています。

このような事情を踏まえ、本共催セッションでは、プラズマ物理学に関連する国内の研究者が一堂に会して、従来の枠組みを超えた議論ができる場を提供し、相互交流を活性化するとともに、プラズマをキーワードとする新たな研究ネットワークの形成を目指しています。

今回の第３回共催セッションでは、(1)実験室宇宙物理、(2)粒子加速・プラズマ加熱、(3)ジェット・相対論プラズマ、(4)プラズマ計測・診断、(5)乱流・ダイナモ・リコネクション、(6)プラズマシミュレーション技法、(7)ダスト・電離非平衡プラズマ、(8)輻射輸送・電磁放射、の8サブセッションを設け、チュートリアル講演、招待講演、一般講演から構成する予定です。皆様の積極的なご参加をいただければ幸いです。

参考1：参加費・講演登録料

物理学会・SGEPSS会員が共催セッションで講演をする場合：

参加費　　＝ 無料
講演登録費 ＝ 3000円/件

共催セッションで講演をしない場合：

参加費　　＝ 5000円
講演登録費 ＝ 5000円/件
（共催セッション以外で講演する場合）

予稿集はいずれの場合も1000円。

参考2：３学会合同プラズマ共催セッション世話役名簿（敬称略）

●物理学会

小野　靖（領域２代表：東大）
ono@k.u-tokyo.ac.jp
石原　修（領域２副代表：横浜国大）
oishihar@ynu.ac.jp
赤塚　洋（シンポジウム担当役員正：東工大）hakatsuk@nr.titech.ac.jp
草野完也（シンポジウム担当役員副：地球シミュレータ）kusano@jamstec.go.jp

●天文学会

松元亮治（世話役代表：千葉大）
matumoto@astro.s.chiba-u.ac.jp
柴田一成（京大）
shibata@kwasan.kyoto-u.ac.jp
工藤哲洋（国立天文台）
kudoh@th.nao.ac.jp
中本泰史（年会実行委員長、東京工業大学）
nakamoto@geo.titech.ac.jp

●地球電磁気・地球惑星圏学会

中村　匡（代表、福井県立大）
tadas@fpu.ac.jp
臼井英之（SGEPSS運営委員、京大）
usui@rish.kyoto-u.ac.jp
吉川一郎（SGEPSS運営委員、東大）
yoshikawa@eps.s.u-tokyo.ac.jp
星野真弘（東京大）
hoshino@eps.s.u-tokyo.ac.jp
櫻庭　中（東京大）
sakuraba@eps.s.u-tokyo.ac.jp
関華奈子（名古屋大）
seki@stelab.nagoya-u.ac.jp

男女共同参画提言WG報告

(1) 男女共同参画学協会連絡会の活動

11月より移行した第5期では（委員長：美宅成樹）、5年目という節目にあたり、具体的な施策の実施として、8-10月にかけて大規模アンケートを実施することとなった。実施にあたり、文科省から調査委託費（100万円程度）が受けられることとが決まった。また、今までは、シンポジウムの参加費のみで連絡会運営がなされてきたが、参加学会が増え、特別事業の費用、ウェブ広報費、会議費等維持費がかかり、幹事学会の負担も多いことから、別途各学会の規模に応じて運営費を徴収することとなる。

今年で三回目となる「平成19年度女子高校生夏の学校」運営委員会が立ち上がり、SGEPSSからも長妻委員が、企画、準備、運営の協力、講演者の紹介、学会紹介ポスター作成などに関わる予定である。過去2回の開催時にも、SGEPSSは後援学会として企画の立案や運営に協力し、講演や、学会のポスター紹介等を実施した。

また、NWECで行っている文科省の委託事業「女性の理工系進路選択支援事業」に協力し、全国の高校、女性施設対象とした研修会、モデル事業提案を行った。これは、次世代の科学技術を担う研究者・技術者の育成を推進するため、女子生徒の理工系進路選択を支援する啓発事業の企画運営である。SGEPSSでは、情報提供や企画運営に関わっている。今年度は、女子生徒等を対象とした様々な取組の国内外の事例集を作成し、モデルプログラムの作成や全国の関連施設等への普及活動を行った。

(2) アンケート調査

WGでは、大学・研究機関における有期限雇用の研究職に関するアンケート調査を実施し、期限までに約150件の回答が得られ、現在集計・分析作業中である。この後、集計・分析結果を報告書としてまとめ、5月の連合大会で予定されている一般公開セッション「地球惑星科学の明日を考える —男女共同参画の視点から—」にて、結果を発表する。なお、ポスターセッションでは、過去の学会保育室設置の経緯と現状について報告する。

（木戸ゆかり、長妻　努、田口　真）

EPSからのお知らせ

(1) EPSカラーページ・チャージの変更

EPS誌では、2004年春よりカラーページ代金を2ページまで無料とするサービスをしてまいりましたが、科研費等財政事情の変化に伴いやむをえず、2007年4月1日投稿受付論文より以下のように変更となります。

・同じ図を電子版はカラー、冊子体は白黒にできる。
・電子版の2ページまでのカラーは無料。
・電子版の3ページ目以上のカラーは有料。1ページ4万円。
・冊子体のカラーは有料。1ページ6万円。
・冊子体のカラーページ・チャージを払った場合は、別刷りもカラーで印刷される。

例えば、2ページを電子版、冊子体両方ともカラーにしたい場合は冊子体2ページ分がチャージされ6万円x2ページ=12万円となり、4ページを電子版、冊子体両方ともカラーにしたい場合は電子版2ページ分と冊子体4ページ分がチャージされ（4万円x2ページ）＋（6万円x4ページ）＝32万円となります。

(2) 2006年EPS賞の報告

2006年EPS賞は矢田 達 氏（宇宙航空研究開発機構）に授与される事が決定しました。なお授賞式は、日本地球惑星科学連合2007年大会期間中の5月22日(火)18:10-18:20に同会場1Fレストランにおいて開催されます。

授賞論文：

Toru Yada, Tomoki Nakamura, Nobuo Takaoka, Takaaki Noguchi, Kentaro Terada, Hajime Yano, Takakiyo Nakazawa, and Hideyasu Kojima
"The global accretion rate of extraterrestrial materials in the last glacial period estimated from the abundance of micrometeorites in Antarctic glacier ice". Earth Planets Space, 56, 67-79, 2004.

授賞理由：

This paper sheds light on the rate of accretion of extraterrestrial material to Earth and is based on a novel use of micrometeorites in Antarctica. Micrometeorites are small grains of 1 mm or less in size and are mainly composed of silicate materials. They come from the interplanetary space, landing on the ice sheet of the Antarctic Continent in this case. As time goes on, new ice precipitates and embeds micrometeorites in the ice. By measuring both the amount of micrometeorites and the age of the surrounding ice, one can estimate their mass flux rate from the space to the Earth as a function of the time.

The authors of this paper first obtained the blue ice around the Yamato Mountains in Antarctica, which amounted to 34.5 ton in total. Next, they melted the ice and filtered it, hand-picking micrometeorites from the residual "glacial sands", yielding a total of 1.19 g of micrometeorites. In order to remove the contribution of terrestrial materials in the residue, they also estimated the amount of extraterrestrial material by measuring its solar noble gas concentration. Carrying out such laborious work, the authors finally estimated the mass accretion rate onto the whole Earth at about 27,000-33,000 years ago: 16,000 ton per year. This value is similar to the one estimated for the present day by previous studies based on younger ice or an artificial satellite. This implies that the mass flux onto the Earth over the last 30,000 years has not changed significantly. It also implies that the mass distribution in the inner Solar System has been rather steady within this time scale.

This paper was the first attempt to perform an extensive collection of micrometeorites from blue ice in the Antarctic Continent. The idea of this paper is highly original, and the results lead to several fruitful implications for the study of the inner Solar System. Many future studies will be conducted following the approach of this paper. The contribution of the first author, Dr. Toru Yada, is essential and indispensable, particularly for his efforts with samples of unprecedented huge amounts. For these reasons, we proudly nominate Dr. Yada for the 2006 EPS award.

(3) EPS電子版へのアクセスについて

EPS誌は、平成18年度より電子版主体の運営に移行いたしました。これに伴い、Vol.58(2006) No.4以降は冊子体の発送を行っておりません。会員の皆様には、電子版をご利用いただきますようお願いします（注1,2）。電子版のアクセス方法を以下にご説明させていただきます。

まず、出版社の閲覧登録システム（http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/SGEPSS/index.php：学会HPからもリンクを設けてあります）にアクセスして、会員であることの確認を受けパスワードの発行を受ける必要があります。（会員情報システムへのアクセスのためのパスワードとは別途のものです。）

IDには当学会識別符号のM（半角大文字）に続けて会員番号を入力下さい（注3）。例えば、会員番号12345678の方は M12345678です。Last Nameには、半角アルファベットで姓を入力下さい。先頭は大文字、以下は小文字でお願いします。登録システムからID, パスワードが発行されます（注4）。IDは入力した会員番号と同じになります。以降は、このID, passwordを用いて、EPSのWeb Page(http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/index.html)から論文フルテキストをダウンロードできます。会員にはメールでコンテンツサービスを行います（注5）。

機関購読においても電子版のオプションを設けています。所属機関が電子版を契約している場合には、ID・passwordによる認証によらず電子版にアクセス可能です。

ご不明の点がございましたら、運営委員会（雑誌担当：齊藤、田口）までお願いします。

【注意事項】

注1：冊子体が必要な方は、年額6,000円で購読可能です。希望者は直接出版社（テラパブ）にお申し込み下さい。（電話：03-3718-7500）

注2：ｼﾆｱ会員にはこれまで冊子体の発送を行っておりませんでしたが、電子版へのアクセスは可能です。

注3：会員番号をお忘れの方は、学会事務局にお問い合わせ下さい。

注4：登録は1回のみ可能です。パスワードを忘れないようお願い致します。万一パスワードを忘れた場合は、テラパブにお問い合わせください（電話：03-3718-7500）。

注5：現在当学会からのご案内がメールで届いている方には、自動的に送られます。メールアドレスの規登録・変更は、学会HPから会員専用ページにアクセスし、個人情報の更新を行って下さい。

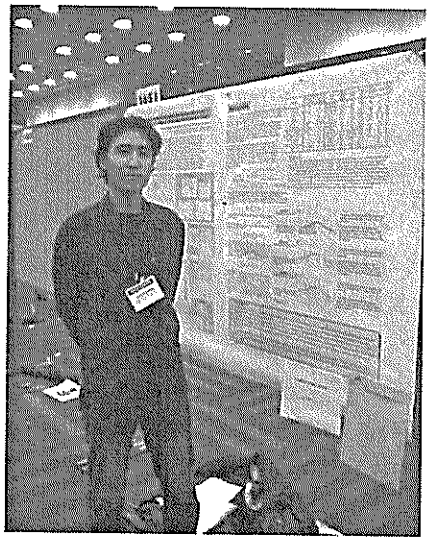
（斉藤昭則）

国際学術交流事業補助金受領の報告

東京工業大学火山流体研究センター
相澤広記

この度、本学会の国際交流事業から補助により、2006年12月に米国サンフランシスコで開催されたAGU Fall meetingに参加させていただきました。貴重な機会を与えて下さった本学会の皆様に深く感謝いたします。米国地球物理学連合秋季大会のことは他の方々から聞いていたのですが、想像すると実際行ってみるとでは大きな違いがありました。発表件数が約1万件と規模が大きなことにも驚きましたが、それ以上に会場全体に独特な緊張感と高揚感を感じたことが印象に残りました。口頭発表は全ての発表に明確なメッセージがあり、皆が居眠りせず真剣に聞き入り、質問も遠慮なくしていたことに印象を受けました。ポスターは見せたいところをうまく工夫しており、ポイントを押えて説明してくれました。発表の内容に関しては、特に同年代の研究者が、私がやりたいと考えていた研究を行っていたり、日本で支配的な考えと米国での考えは全く違っていたことを知り、刺激を受けました。

私の発表は、5日目最終日にポスター形式で行いました。私は野外観測によって火山の電気伝導度や電位分布を求め、山体内部のマグマや熱水活動を推定する研究を行っています。今回発表した内容は、



一つの火山のなかでも電位異常がない斜面と、電位異常がある斜面が共存している事例を発見したこと、その解釈として、電位異常がない斜面下には熱水系が存在し、山体崩壊（1980年にセントヘレンズ山で起こったような，非常に大規模な山くずれ)をおこす可能性が高いと予測できるというものでした。火山体内部の構造を対象とした発表が他にほとんど無かったので心配しましたが、用意してきたポスターの縮小版はほぼ無くなり、朝10時から7-8人に説明できました。特に山体崩壊を地質学的に研究しているという研究者と議論できたことは収穫となりました。ただ、多くの人にアピールするという点では問題点が多かったと反省しております。コミュニケーションの不安からポスターに字を書きすぎたこと。思い返せば一番人が多かった早朝の時間帯にポスター会場から離れてしまったこと。publishされた論文はあるのか？と聞かれたときに別刷りを用意してなくて出せなかったことなどです。これらの経験は今後に必ず生かしたいと思います。今回の発表内容は、帰国後に学会参加によって考えたことを加えて、2本の論文にまとめて投稿することができました。最後にAGUに参加中の5日間は刺激が多く、いつもより速く心臓が動いていたような気がします。貴重な機会を与えてくださった皆様に感謝すると共に、今後とも同制度が継続されることを切望いたします。

国際学術交流事業補助金受領の報告

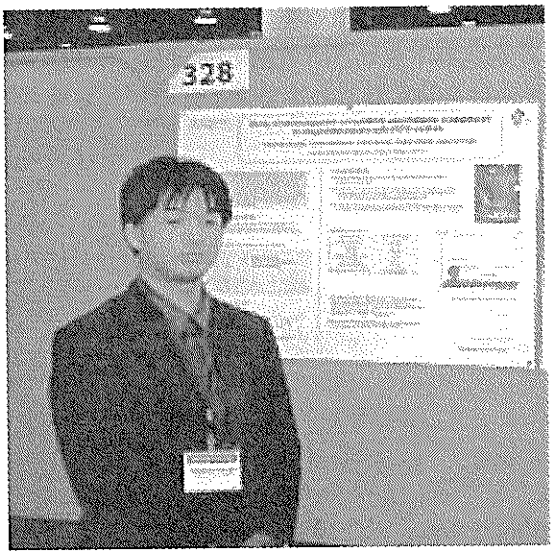
富山県立大学　三宅壮聡

この度、本学会の国際学術交流事業の補助をいただき、2006年12月11日から15日にかけてアメリカ合衆国サンフランシスコで開催されました AGU Fall Meeting 2006に参加させて頂きました。このような貴重な機会を与えて下さいました本学会関係者の方々に厚く御礼申し上げ、その成果にてついて御報告させて頂きます。

AGU Fall Meetingへの参加は学生時代から数えると4度目となりますが、この国際学会の活気あふれる雰囲気と質の高い発表や議論は毎回大変大きな刺戟になります。今回私は、「Study of electro-magnetic compatibility requirements of spacecrafts in magnetized plasma with FDTD method」というタイトルでポスター発表を行いました。この発表は比較的少ないコンピューターリソースのもとで宇宙空間におけるEMCのシミュレーションを行う方法の検討結果について報告を行ったものです。人工衛星の一部をモデル化し、そこから放射される電磁ノイズのシールド法について様々な条件でシミュレーションを実行し、そのシールド効果について定量的な比較を行い、宇宙空間における電磁ノイズの効果的なシールド方法について検討した結果を報告しました。今回は電磁ノイズを導電性フードによってシールドすることとし、様々なフード形状について繰り返しシミュレーションを行い、そのシールド効果を定量的に比較検討して最も効果の高いフード形状(長さ・角度)を求めました。この研究は試行錯誤を繰り返して効果的なシールド方法を探るといったどちらかというと工学的な要素の強いもので、AGUのような地球物理学会では余り皆様の興味を魅かなかったためか、残念ながら活発な議論を交わすということにはなりませんでしたが、それでも工学系の学会ではあまり指摘されない理論的な部分について有意義な意見を多数伺うことが出来たのは大きな収穫となりました。

AGU Fall Meetingに参加することは、自分の研究について報告するだけでなく、地球物理に関する世界的な研究の現状を知る事が出来るという貴重な機会でもあります。特にアメリカを中心に進められている各種将来ミッションの紹介や、最新の衛星観測結果、シミュレーション結果を用いた質の高い研究発表に触れることができ、大変勉強になり、また大いに刺戟になりました。

最後に、今回の国際学術事業により数多くの貴重な経験を得ることができたことに改めて深く感謝し、応募を勧めて下さった諸先生方に心より御礼申し上げます。今後も本事業が多くの若手研究者に大いに活用され、国際会議参加のための大きな支援となることを願っています。



関連研究集会のご案内

CAWSESに関する国際シンポジウムのお知らせ

ICSU傘下のSCOSTEP(Scientific Committee on Solar-Terrestrial Physics)が2004 - 2008年に実施している国際共同研究計画であるCAWSES (Climate and Weather of the Sun-Earth System) に関する国際シンポジウムが下記の要領で開催されます。シンポジウムではCAWSESの4大テーマ①太陽の気候への影響、②宇宙天気：科学と応用、③大気間結合過程、④太陽地球系の総観的研究、に関するセッションが企画されています。ご参加よろしくお願いします。

記

日時：2007年10月23日～27日
会場：京都大学百周年時計台記念館大ホール
主催：SCOSTEP、京都大学生存圏研究所、京都大学大学院理学研究科附属天文台、名古屋大学太陽地球環境研究所、京都大学COEプログラム「活地球圏」、京都大学COEプログラム「物理学の多様性と普遍性の探求拠点」、名古屋大学COEプログラム「太陽・地球・生命圏相互作用系の変動学」
共催：日本気象学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本天文学会
後援：日本地球惑星科学連合、日本学術振興会
コンビーナ：津田敏隆（京都大学）、柴田一成（京都大学）、藤井良一（名古屋大学）、M. A. Geller（ニューヨーク州立大、President of SCOSTEP)
ホームページ：http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/cawses/

学術賞・研究助成のご案内

第24回井上学術賞

会長締切：2007年8月11日(必着)

井上科学振興財団 から、第24回（平成19年度）井上学術賞受賞候補者推薦依頼が当学会にきています。推薦は、学会を通じて行うことになっており、当学会は推薦を依頼されている28学会にノミネートされています。奮ってご応募ください。

候補者対象：自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた研究者。但し,年齢が平成19年9月20日現在で50歳未満の研究者に限ります。

学術賞：本賞：賞状および金メダル　副賞：200万円
受賞件数は5件以内

申請書は、平成19年8月11日(土)必着で会長宛にお送りください。評議員会の議を経て、学会から1名を推薦することになります。詳細は以下のwebをご覧ください。
http://www.inoue-zaidan.or.jp/jigyo/jigyo01.html#jigyo01

第24回井上研究奨励賞

趣旨：過去3年間に、理学・工学・医学・薬学・農学等の分野で博士の学位を取得した35才未満の研究者で、自然科学の基礎的研究において新しい領域を開拓する可能性のある優れた博士論文を提出した研究者に、賞状、メダル、および研究奨励金 50万円を贈呈する。

受賞件数：30件
募集方法：博士論文を指導した研究者の推薦に基づき、学位を授与した大学の学長からの推薦
締切：2007年9月20日
連絡先：財団法人井上科学振興財団
〒150-0036 東京都渋谷区南平台町15-15
南平台今井ビル601
TEL:03-3477-2738 FAX:3477-2747
http://www.inoue-zaidan.or.jp/

参考：当学会(sgepss)会員では、平成16年度に津川卓也会員が受賞。

国際研究集会開催経費の一部援助

援助の対象：わが国で開催される比較的小規模の自然科学の基礎的研究の分野の国際研究集会（2国間で開催されるものを含む）で学問的意義の大きいもの。

援助の件数および額：年間約30件、1件につき50万円～100万円
締切日：偶数月の各月末
募集は随時行いますが、選考は年6回に区切って行い、締切月の翌月中に結果を申請者に通知します。

連絡先：財団法人井上科学振興財団
〒150-0036 東京都渋谷区南平台町15-15
南平台今井ビル601
TEL:03-3477-2738 FAX:3477-2747
http://www.inoue-zaidan.or.jp/

国際研究集会への出席旅費の一部援助

申請資格等：
(1) 自然科学の基礎的研究の分野の国際研究集会で自らの研究について発表等を行うものであること。
(2) 年齢が原則として40歳未満であること。
(3) 大学院学生である場合は、原則として、博士後期課程在籍者であること。
(4) 国際研究集会が開かれる「前年度」又は「前々年度」に、当財団から国際研究集会出席旅費援助を受けていないこと。

援助の件数および額：年間約60件、1件につき10～25万円
募集および選考：募集は随時行いますが、選考は年6回に区切って行います。
連絡先：財団法人井上科学振興財団
〒150-0036 東京都渋谷区南平台町15-15
南平台今井ビル601
TEL:03-3477-2738 FAX:3477-2747
http://www.inoue-zaidan.or.jp/

（財）宇宙科学振興会 平成１９年度国際研究集会への参加費用支援の募集

趣旨：（財）宇宙科学振興会（理事長武井俊文）では、研究助成の一環として国際研究集会への参加費用支援を行っております。詳細は下記ホームページをご参照の上、申請書を財団宛お申し込み下さい。

支援対象：宇宙理学（地上観測を除く）および宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する独創的・先駆的な研究活動を行っている若手研究者（当該年度4月2日で35歳以下）、またはシニアの研究者（当該年度4月2日で63歳以上の者）で，国際研究集会での論文発表または主要な役割などが原則として確定している者。時期的な理由で，論文の発表採択が未確定の場合でも申請できます。申請についての詳細は、下記照会先ホームページをご参照下さい。

支援金額：一件あたり10～25万円程度

申込受付時期：（年3回）
7月1日以降の出発者：5月15日迄
11月1日以降の出発者：9月15日迄
3月1日以降6月末迄：1月15日迄
なお特別な理由のため、申し込みが上記時期に間に合わなかった場合には、その直後の申し込み時期に、理由を付して申し込むことも出来ます。

照会先：（財）宇宙科学振興会事務局
http://www.spss.or.jp/
〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1
JAXA宇宙科学研究本部内
E-mail: admin@spss.or.jp
TEL:042-751-1126、FAX:0427-51-2165

日本学術振興会賞

趣旨：我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるためには、創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し、その研究意欲を高め、研究の発展を支援していく必要があります。この趣旨から日本学術振興会は、平成１６年度に日本学術振興会賞を創設しました。

対象分野：人文・社会科学及び自然科学の全分野です。

受賞条件：国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと認められる者のうち、平成19年4月1日現在以下の条件を満たす者です。
(1) 45歳未満
(2) 博士の学位を取得（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含む。）
(3) 日本国籍を有する者又は外国人であって推薦時点において我が国で５年以上研究者として大学等研究機関に所属しており、今後も継続して我が国で研究活動を予定

推薦権者：
(1) 我が国の大学等研究機関の長
(2) 優れた研究実績を有する我が国の学術研究者

選考方法：日本学術振興会に設置する審査会において選考します。

授賞等：授賞数は毎年度２０件程度とし、受賞者には、副賞として研究奨励金１１０万円を贈呈します。また、日本学術振興会賞受賞者の中から特に優れた者５名以内に、日本学士院学術奨励賞が授与されます。授賞式は日本学士院を会場として行います。

受付期間：平成19年6月4日～6日（必着）

推薦書等の提出、問合せ先：推薦書等は、当会のホームページ(http://www.jsps.go.jp/jsps-prize)よりダウンロードできます。推薦書類は、下記に持参または郵送にて提出してください。

〒102-8472　東京都千代田区一番町8番地
独立行政法人　日本学術振興会
総務部　研究者養成課　「日本学術振興会賞」担当
TEL:03-3263-1762、FAX:03-3222-1986

関連公募のご案内

京都大学教員（准教授）公募のお知らせ

京都大学大学院理学研究科附属地磁気世界資料解析センターは、国際学術連合(ICSU)傘下の世界資料センター(World Data Center) 組織の一員として、地磁気世界資料センター・京都(ＷＤＣ　for Geomagnetism, Kyoto) を運営し、各種地磁気指数の算出をはじめとするデータサービスは、世界中の研究者からきわめて多く利用されています。また、地磁気を主題とする、あるいは、それに密接に関連する自然電磁環境の研究を行うとともに、地球惑星科学専攻の協力講座(自然電磁環境情報学講座)として、学部および大学院学生の教育を行っています。この公募では、地磁気観測の実施を含め、データの収集とＩＴを駆使した処理・サービスの現代化を、国内外の関連機関と連携して積極的に推進し、かつ、新たな研究分野、学際的分野を開拓する意欲のある方を求めます。

記

1. 職名・公募人員： 准教授　１名
2. 所属： 理学研究科・附属地磁気世界資料解析センター
3. 研究分野： 自然電磁環境情報学
4. 研究・職務内容：
   (1)地磁気世界資料センター・京都(WDC　for Geomagnetism,Kyoto)の運営とデータサービス
   (2)地磁気を主題とする、あるいは、それに密接に関連する自然電磁場の研究
   (3)学部および大学院学生の教育
5. 応募資格： 博士の学位を有すること。
6. 提出書類：
   (1) 応募書　（カバーレターに相当するもので、A4サイズの用紙に下記項目を記載。形式は自由。）
      ・氏名
      ・学位
      ・所属
      ・職
      ・所属先住所、電話番号
      ・現住所、電話番号、電子メールアドレス
   (2) 履歴書
   (3) 研究業績リスト
   (4) 主要論文5編以下の別刷りを各１部
   (5) これまでの研究活動の概要（A4版用紙2枚以内）
   (6) 今後の研究活動、地磁気世界資料センター活動推進への抱負（A4版用紙2枚以内）
   (7) 応募者について意見を聞ける方2名程度の氏名と連絡先
7. 応募締切： 平成19年5月1日（火曜日）必着
8. 選考・着任時期： 応募締切後、選考過程において面接を行うことがある。着任は決定後、可能な限り早い時期。
9. 応募書類提出先：
   〒606－8502　京都市左京区北白川追分町
   京都大学大学院理学研究科
   附属地磁気世界資料解析センター
   家森俊彦　宛

なお、郵送の場合は書留とする。

10. 問合せ先：
   (1) 研究・職務内容に関すること
   附属地磁気世界資料解析センター　家森俊彦
   電話:075-753-3949
   E-mail: iyemori@kugi.kyoto-u.ac.jp
   (2) 事務手続きに関すること
   附属地磁気世界資料解析センター 事務担当
   武内典子
   電話：075-753-3929、FAX:075-722-7884

11. 個人情報保護：本募集に関連して提出された個人情報については、選考の目的に限って利用し、選考終了後は、教員として採用された方の情報を除き全ての個人情報は責任を持って破棄します。

12. 参考：
附属地磁気世界資料解析センターには、現在以下の教員が配置されている。
教授：　家森俊彦
助手：　竹田雅彦・能勢正仁
なお、地磁気世界資料解析センターのホームページは、http://swdcwww.kugi.kyoto-u.ac.jp/である。

北海道大学教員募集のお知らせ

北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門地球惑星ダイナミクス分野では、下記の要領で教員を公募することになりました。

記

1. 職種・人員：自然史科学部門　地球惑星ダイナミクス分野　准教授・1名

2. 専門分野：測地学及び関連する研究分野を広い視野に立って推進する方

3. 着任予定時期：決定後できるだけ早い時期

4. 応募書類：
(1)履歴書（国内外の学会活動、受賞歴、参加しているプロジェクト、研究歴、各種研究費受領歴、常勤講師の経歴などを含む）
(2)これまでの研究経過（2,000字程度）
(3)研究業績目録（和文のものは和文で表記すること）
A. 査読のある論文および総説
B. 査読のない論文および総説
C. 著書
D. 解説，報告などその他の出版物で特に参考になるもの
(4)主な論文別刷または著書　5篇（複写可）
(5)今後の教育・研究の計画と抱負（2,000字程度）
(6)教育経験がある場合，これまでの教育活動の概要（1,000字程度）、学位審査履歴（主査・副査のほか実質的指導を含む）
(7)応募者について照会が可能な方2名の氏名と連絡先

5. 応募締切：2007年4月30日（月）（必着）
封筒の表に「教員公募（地球惑星ダイナミクス）関係」と朱書きし、書留にて郵送すること．なお応募書類は返却しません。

6. 公募締切後の選考段階で、面接あるいは講演会等を行うことがあります。

7. 書類の送付及び問合せ先：
〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門
地球惑星ダイナミクス分野　小山　順二
電話：011-706-3526
ファックス：011-746-2715
電子メール：
koyama@mande001.sci.hokudai.ac.jp

学会賞・国際交流事業関係　年間スケジュール

積極的な応募・推薦をお願いします。詳細は学会ホームページを参照願います。

賞・事業名	応募・推薦／問い合わせ先	締め切り
長谷川・永田賞	会長	2月28日
田中舘賞	会長	8月31日
大林奨励賞	大林奨励賞候補者推薦委員長	1月31日
学生発表賞	推薦なし／問合せは運営委員会	
国際学術交流若手派遣	運営委員会総務	平成19年度は5月上旬、7月中旬 9月中旬、2月中旬を予定
国際学術交流外国人招聘	運営委員会総務	若手派遣と同じ

SGEPSS Calendar

2007-05-04～05-09　Greenland IPY 2007 Space Science Symposium (Kangerlussuaq, Greenland)
2007-05-19～05-24　日本地球惑星科学連合2007年大会
（幕張メッセ 国際会議場、千葉市美浜区）
2007-05-22～05-25　AGU 2007 Joint Assembly (Acapulco, Mexico)
2007-06-04～06-08　SuperDARN 2007国際会議　（網走湖荘、北海道網走市）
2007-06-18～06-22　UN/ESA/NASA Workshop on Basic Space Science and the International Heliophysical Year 2007 (国立天文台、東京都三鷹市)
2007-06-24～06-29　CEDAR Workshop (Santa Fe, USA)
2007-06-25～06-29　5th INTERNATIONAL PLANETARY PROBE WORKSHOP (IPPW-5) (BORDEAUX, FRANCE)
2007-07-02～07-13　The XXIV IUGG General Assembly　(Perugia, Italy)
2007-07-30～08-04　AOGS 4th Annual Assembly 2007　(Bangkok, Thailand)
2007-09-24～09-28　4th Alfven Conference "The Importance of Plasma Processes in Planetary Physics and Astrophysics" (Arcachon, France)
2007-09-28～10-01　SGEPSS秋期総会・講演会（名古屋大学、名古屋市千種区）

地球電磁気・地球惑星圏学会　(SGEPSS)

会長　歌田久司　〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1
東京大学地震研究所　海半球研究センター
TEL: 03-5841-5722 FAX: 03-3812-9417　e-mail: utada@eri.u-tokyo.ac.jp

総務　石井　守　〒184-8795 東京都小金井市貫井北町4-2-1
独立行政法人　情報通信研究機構　電磁波計測研究センター
TEL: 042-327-7540　FAX: 042-327-6163　e-mail: mishii@nict.go.jp

広報　北　和之（会報担当）　〒310-8512　茨城県水戸市文京2-1-1　茨城大学理学部
TEL: 029-228-8400　FAX: 029-228-8400 e-mail: kita@mx.ibaraki.ac.jp
河野英昭（会報担当）　〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学理学部地球惑星科学科
TEL: 092-642-2671　FAX: 092-642-2684 e-mail: hkawano@geo.kyushu-u.ac.jp

運営委員会（事務局）　〒650-0044　神戸市中央区東川崎町1-8-1　プロメナ神戸16F
（株）プロアクティブ内　地球電磁気・地球惑星圏学会事務局
TEL：078-366-5057　FAX：078-366-5051　e-mail: sgepss@pac.ne.jp

賛助会員リスト

下記の企業は、本学会の賛助会員として、
地球電磁気学および地球惑星圏科学の発展に貢献されています。

エコー計測器（株）
〒182-0025
東京都調布市多摩川2-3-2
tel.　0424-81-1311
fax.　0424-81-1314
URL　http://www.clock.co.jp/

NEC東芝スペースシステム(株)
〒224-8555
横浜市都筑区池辺町4035
tel.　045-938-8230
　　ext: 8-399-2590
fax.　045-938-8324
　　ext: 8-399-2559
URL　http://www.ntspace.jp/

クローバテック（株）
〒180-0006
東京都武蔵野市中町3-1-5
tel.　0422-37-2477
fax.　0422-37-2478
URL　http://www.clovertech.co.jp/

（有）テラ学術図書出版
〒158-0083
東京都世田谷区奥沢 5-27-19
三青自由ヶ丘ハイム2003
tel.　03-3718-7500
fax.　03-3718-4406
URL http://www.terrapub.co.jp/

（有）テラテクニカ
〒206-0812
東京都稲城市矢野口 3266-1
ランド弐番館
tel.　042-379-2131
fax.　042-370-7100
URL　http://www.tierra.co.jp/

日鉄鉱コンサルタント(株)
〒108-0014
東京都港区芝4丁目2-3いすゞ芝ビル5F
tel. 03-6414-2766
fax. 03-6414-2772
URL　http://www.nmconsults.co.jp/

富士通（株）宇宙システム部
〒261-8588
千葉市美浜区中瀬 1-9-3
富士通システムラボラトリ
tel.　043-299-3247
fax.　043-299-3012
URL　http://jp.fujitsu.com/

丸文（株）営業本部航空宇宙部
計測機器課
〒103-8577
東京都中央区日本橋大伝馬町 8-1
tel.　03-3639-9821
fax.　03-3661-7473
URL　http://www.marubun.co.jp/

明星電気(株)宇宙機器技術部
〒372-8585
群馬県伊勢崎市長沼町2223
tel. 0270-32-9777
fax. 0270-32-0988
URL　http://www.meisei.co.jp/